

日本脳炎ワクチン接種がはじまります



日本脳炎ってなに？

本脳炎ウイルスにより発生する疾患で、コダカアカイエカという蚊を介して感染します。

このウイルスは極東から東南アジア・南アジアにかけて広く分布しています。

症状について

6～16日間の潜伏期間の後、高熱(38～40℃)、頭痛、吐き気、めまいなどができます。その後、意識障害などの神経症状が出てきます。

発症するとどうなるのか

感染しても大多数の人は無症状で済みますが、100～1,000人に1人程度は発症するといわれています。発症すると20～40%の方が亡くなり、生存しても40～70%に麻痺や精神障害などの後遺症が残るといわれています。

日本での現状について

日本では2005年から2014年まで56名が発症し、3人が亡くなっています。

治療について

治療方法は特になく、症状を抑える治療を行います。しかし、薬によって症状を落ち着けることができても死亡率や後遺症などが良くなることはないといわれています。治療が難しいことから、予防が最も大切です。

日本脳炎ワクチンについて



効果について

ワクチンを接種することで体内に日本脳炎への免疫ができ、罹るリスクを75～95%減らすことができるといわれています。

北海道でもワクチン接種が開始されます

北海道では、これまで40年以上日本脳炎に罹った人はおらず、感染を広げる蚊(コダカアカイエカ)も生息していないため、定期予防接種を実施しておりませんでした。しかし、道民が道外や海外へ行き来する機会も増え、感染する可能性が高まっていることから、平成28年4月より定期予防接種を行うことになりました。

副反応について

ワクチンを接種すると、ごくまれに副反応で重い病気になることがあります。平成26年末では、延べ89万回の接種で、重篤な副反応が起きたのは6件と報告されています。現在の安全性の高いワクチンであっても副反応が出現する可能性がありますので、十分に理解し納得した上で接種してください。

日本脳炎予防接種の対象者・受け方について

- 通常は3歳で2回、4歳で1回、9歳で1回の合計4回受けます。
- 北海道では定期予防接種を行っていなかったため、上記以外の20歳未満の方も接種することができます。
- 詳しい年齢や接種回数等は来月4月号の広報およびほけん・ふくしガイドにてお知らせいたします。



詳しくは・・・【お問合せ先】保健センター ☎(574) 3141

平成27年度 全国体力・運動能力等調査

豊頃町の児童・生徒の 体力や運動習慣は？

豊頃町教育委員会・豊頃町教育研究所

町内の小学5年生、中学2年生を対象に実施した平成27年度全国体力・運動能力等調査の分析結果が過日示されました。各学校においては、この分析結果を生かした体育科授業の工夫改善、体力づくり活動の計画的実施など、既に取り組を進めているところです。

これに関わり、本町の体育・スポーツ振興の観点から、家庭、学校、地域が連携・協力し、心身ともに健康な子ども達の育成の参考に努めていただきたいと思います。

○調査実施期間 平成27年4月～7月

○調査の対象学年および実技内容

- ／小学校第5学年 ・握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・20mシャトルラン・50m走・立ち幅とび・ソフトボール投げ
- ／中学校第2学年 ・握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・シャトルランが持久走・50m走・立ち幅とび・ハンドボール投げ

○運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

●豊頃の子どもの体力等の傾向

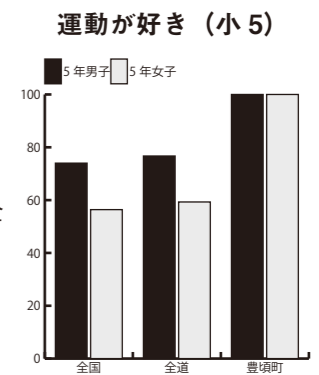
【小学生】全8種目の体力合計点が、6年ぶりに男女そろって全国、全道を上回りました。

《実技》／全8種目中、男子は握力、長座体前屈、50m走以外の5種目、女子は長座体前屈以外の7種目が全国、全道を上回りました。

／男女共に長座体前屈が、全国、全道を7～9cm程度下回る傾向が続いています。

《質問紙》／「運動が好き」、「体育の授業が楽しい」のいずれもが、男女共100%で全国・全道を大きく上回っています。

／中学校進学後、授業以外に自主的に運動したい児童が70%を超えています。
／男女共に「朝食・夕食」を食べない日があり、平日のテレビ視聴等が5時間を超える児童がいます。



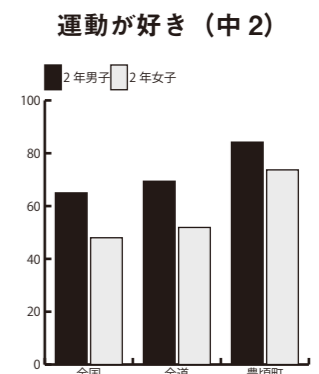
【中学生】体力合計点は、女子は全国、全道を上回りましたが、男子はいずれも下回りました。

《実技》／全8種目中、男子が持久走、立ち幅とびの2種目、女子は長座体前屈、反復横とび、50m走以外の5種目が全国、全道を上回りました。

／男女共に長座体前屈が、全国、全道を下回る傾向が平成20年度第1回調査から5期連続しています。

《質問紙》／男女共に「運動が好き」が全国、全道を上回っていますが、「運動が得意」では男子42.1%、女子47.4%の回答でした。

／中学校卒業後、自主的に運動したいという生徒は男子52.6%、女子47.4%でした。
／男女共に「朝食」を食べない日があり、平日のテレビ視聴等が5時間を超える生徒がいます。



●調査結果から考えられること

【全体の傾向と課題】

- 小中学生男女共に「20mシャトルラン」、「立ち幅とび」が、全国、全道を大きく上回るなど、瞬発力や持久力に高い能力を示しており、今後更に伸張させるためにも段階的に運動スキルを向上させることが大切です。
- 小中学生ともに「運動が好き」であり、「運動は大切」は6割以上の回答がありました。
- 「長座体前屈」が、小中学生男女共に継続して全国、全道を下回っていることから、柔軟性向上が継続課題です。
- 小学生男女が「朝食と夕食」、中学生男女には「朝食」を摂らない日が「ある」と回答があったことから、1日3食の食習慣を確立する必要があります。

【今後の取組の方向性】

- 学校では、今ある優れた能力を一層高めつつバランスの良い体の動きを目指し、総合的な体力等向上に資する授業研究や部活動等諸活動の充実に努めます。
- 家庭では、基本的な生活習慣の基盤を成す1日3食の「食習慣」を大切にするとともに、家庭生活にストレッチやスポーツタイムを設けて家族全体で健康づくりに取り組むなど、スポーツの生活化を実現させましょう。
- 地域では、PTA、子ども会、スポーツ少年団活動や町内会行事などにおいて、子どもも大人も楽しめるゲームや軽運動を取り入れるなど工夫し、スポーツに親しむ環境づくりにご協力をお願いいたします。

問合せ先 教育課学校教育係 ☎(579) 5801